

2019/3/1 一橋講堂(千代田区)

全国シンポジウム  
「地域推薦卒医学生の卒前・卒後教育をどうするか？」  
～地域医療対策協議会の役割の変遷を受けて～

## ～働く中で、将来像を描く～

鹿児島大学地域卒卒業  
専攻医プログラム1年目  
永野 大河

## 略歴

- H22年4月 鹿児島大学 医学部医学科に地域卒生として入学
- H28年4月 大学病院で初期臨床研修開始
- H29年9月 専攻を鹿児島大学産婦人科プログラムへ提出
- H30年4月 鹿児島市立病院・救急科で後期研修開始

## 専攻の悩み(初期研修2年目)

- もとは産婦人科に興味があった
- 初期研修で救急の楽しさ、怖さを知る
- 産婦人科あるいは救急科で迷っていた

結局は

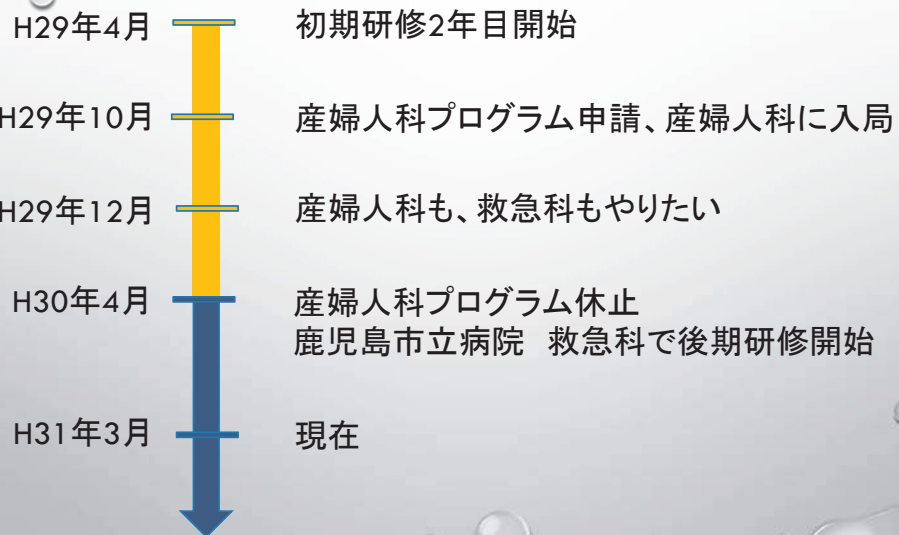
→産婦人科プログラム提出、鹿児島大学産婦人科に入局

## 専攻の悩み(初期研修2年目)

- 救急への想いは捨てきれず、、
- 救急も産婦人科もやりたい！
- 両方とも専門医取得まで

→産婦人科プログラム休止

→専攻医1年目は鹿児島市立病院 救急科で後期研修



## 鹿児島市立病院

- 救命救急センターはドクターヘリ、カー事業も
- NICU充実(5つ子が最初に生まれた病院)



## 現在の診療と将来像

- 産後出血の転院搬送が多い
- 重症例では救急科も初療に携わる
- 肺塞栓、羊水塞栓症の心肺停止患者の社会復帰例も

→妊産婦危機的病態に柔軟に対応できるようになりたい

## 鹿児島県における卒後義務

- 初期研修終了後12年の間に実務研修1年と所定の勤務6年
- 5年間は猶予期間あり

→実務研修や診療所勤務など義務を果たしながら2つの専門医取得可能なのか

## 地域枠義務と専門医取得

- 1年間の実務研修中でも産婦人科や救急科に関われる
- 離島にある産婦人科医院を診療所勤務として扱う

→専攻プログラムを分割して義務勤務しながら専門医取得を目指す

## 現在の想定

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41
プログラム	産(救)	救	産	産	産	産	救	救	救	産	産	
専門医						申請(産)			申請(救)		更新(産)	
義務	—	○	○	○		○	○		○		○	



## 最後に

- 義務勤務により専門医取得へ多少の影響はある
- 可能な限り自由に選択し専門医も上手に取得したい